

日吉台地下壕保存の会会報

第87号

日吉台地下壕保存の会

第20回 (2008年度) 総会のお知らせ

慶應義塾大学創立から150年目の本年、日吉台地下壕保存の会は20年目の節目の総会を行います。

昨年度の総会以降、日吉台地下壕保存の会は、戦争遺跡保存全国シンポジウム東京大会（一橋大学）での取り組み、港北区「ふるさとサポート事業」ガイド養成講座の実施、「川崎・横浜平和のための戦争展」での取り組みなど地道かつ活発な活動を行ってきました。今年の総会に先立っての講演では元連合艦隊司令部通信将校で戦艦大和の沈むまで、現地からの電信連絡を通信部当直将校として、その任にあたられた土方貞彦氏にお出でいただき、お話を伺います。まさに本会でなければ伺うことの出来ない、またとない機会だと思います。その後の総会でも今後の活動などについて忌憚のない皆さまのご意見を伺えればと存じます。ご参会をお待ちしております。

記

日時：2008年5月24日（土） 13：30～16：00

場所：慶應義塾大学日吉キャンパス
藤山記念館会議室

講演テーマ：「大和特攻に関連して」 13：30～15：00

講師：土方貞彦氏（慶應大学卒、元連合艦隊司令部通信部将校）

総会： 15：00～16：00

議題：
・2007年度活動報告案
・2007年度決算報告案
・2008年度活動方針案
・2008年度予算案
・その他

講演者略歴

1. 氏名 土方貞彦
2. 生年月日 1924年3月（大正13年）東京代々木にて誕生 現在84歳

3. 略歴

- イ. 昭和16年3月 旧制東京府立一中卒(現日比谷高校)
- ロ. 旧制慶應義塾大学経済学部予科入学
- ハ. 予科2年途中にて昭和18年10月の学徒動員直後、海軍予備学生を志願し、昭和19年1月海軍第5期予備学生として神奈川県武山に赴任。
- ニ. 昭和20年1月海軍少尉任官と同時に日吉の連合艦隊司令部に赴任。以降8月の終戦まで司令部内通信部にて勤務。この間“大和特攻”通信部当直将校として現地よりの電信連絡の衝に当たる。
- ホ. 終戦に伴い、慶應義塾大学に復学。昭和23年経済学部卒業。
- ヘ. 昭和23年4月帝人(株)入社。以降総務部長などの部長職を歴任。関係会社役員を経て帝人を離籍。その後(株)公文教育研究会に嘱託として約10年勤務。65歳にてリタイア。現在に至る。
- 趣味としては音楽鑑賞(クラシック)であるが最近難聴のため苦勞中。その他として“日本の近現代史”や“太平洋戦争の敗因”その中での“日本海軍壊滅の経緯”などの詳細の調査研究など。

お知らせ

第12回(2008年)

戦争遺跡保存全国シンポジウム愛知大会は、

8月9日(土)～11日(月)

名古屋大学を主会場に開催します

戦争遺跡保存全国ネットワークでは、3月30日、全国運営委員会を名古屋市内で催し第12回戦争遺跡保存全国シンポジウム愛知大会の骨子を決定しました。

大会テーマ	戦争の記憶をどのように伝えるか —愛知の戦争遺跡を調査研究し、保存・継承を考える—
主催	戦争遺跡保存全国ネットワーク 第12回戦争遺跡保存全国シンポジウム愛知大会実行委員会
共催	豊川海軍工廠跡地保存をすすめる会、戦争遺跡研究会、その他
会場	名古屋大学 〒464-8601 名古屋市千種区不老町
日程	8月9日(土)

11:00～12:00 会員総会

13:00～17:30 開会行事・全体集会シンポジウム

記念講演 講師 宗田 理(そうだ おさむ)氏 演題は検討中

宗田 理氏は、1928年生まれ、少年時代を三河一色ですごす。日本大学芸術学部卒業。シナリオ制作、編集者などを経て1979年直木賞候補となった社会派推理小説『未知海域』で作家デビュー。85年に刊行された『ぼくらの七日間戦争』が映画化され、中高生を中心に圧倒的人気呼び、以降「ぼくらシリーズ」は大ベストセラーとなる。豊川海軍工廠の空襲を描いた『雲の涯—ぼくらの太平洋戦争—』、『06年豊橋市制100年記念の映画『早咲きの花』の原作『子どもたちの戦友』、『ええじゃないか—17歳のチャレンジャー—』など著書多数。豊川海軍工廠跡地保存をすすめる会顧問。

18:00~20:00 交流会 名古屋大学生協 (要請中)

8月10日(日)

9:00~15:30 分科会

16:00~17:00 全体集会・閉会行事

* 大会期間中(8月9日・10日)各地の戦争遺跡パネル展・図書販売を実施。

8月11日(月)

9:00~17:00 フィールドワーク コースは現在検討中です。

◎詳細は次回会報でお知らせいたしますが、多くの皆さんが愛知大会に参加されることをご期待申し上げます。

(運営委員新井揆博)

報告

日吉地域における空襲被害実態調査始まる

地下壕保存の会運営委員会

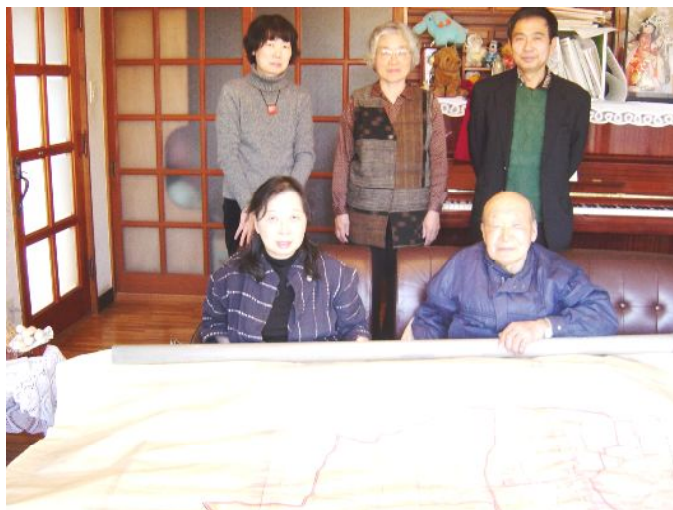


小嶋英佑氏

去る2月27日と4月4日2度にわたり、保存の会の運営員が箕輪の小嶋英佑さん宅を訪問し、米軍による箕輪地域への空襲についてお話を伺いました。27日は運営員5名が訪問し、事前に英佑さんが調べられていた空襲による焼失家屋を用意をしてくれていた箕輪の商店街が戦後作成した地図に記入いたしました。4日は2名の運営委員が訪問し、27日に作成した地図をもとに、保存の会で入手した戦前の横浜市が作成した縮尺三千分の一の地図に転記する作業を行いました。ほぼこれで、箕輪における空襲の実態を正確に把握することができました。焼失家屋の分布から米軍が地下壕を対象にして空襲をしたことが実証されたのではないかと考えております。詳しくは別の機会に報告したいと思います。

調査は
今後、矢
上(宮前、
矢上川
右岸な

ど)、日吉本町、下田など順次実施していく予定です。夏ごろまでに一通り実施し、空襲実態・被害の実態を明にし、また、米軍の三度にわたる日吉空襲の意図を明らかにしていきたいと考えております。遅くとも、今年中には報告書としてまとめて、皆様にお知らせする機会を設けたいと考えております。なお今回お話をさせていただいた小嶋英佑さんは、大正14年に地元箕輪の江戸時代はお医者様の名家の出身。農業にたずさわりが



地図を前にした小嶋英佑氏と運営委員

ら郷土史に精通され、「箕輪のあゆみ」という貴重な著書も出版されています。戦争には昭和19年に応召、昭和20年8月30日に復員されています。

ご高齢にもかかわらず、現在も正確な記憶と貪欲な研究意欲をお持ちで、今回の聞き取りには全面的に協力していただきました。なお、保存の会としては、今後箕輪のみならず、日吉全域の空襲の実態調査が終了するまで協力をお願いできればと思っております。

報告

2007年度ピースロードふるさと港北Part 3

日吉台地下壕保存の会

Part 3の主な活動

1. ガイドブック増刷・無料配布

2005年度「ふるサポ」で作成した、日吉の戦争遺跡のわかりやすいガイドブック『戦争遺跡を歩く 日吉』を3000部増刷。1300部を地下壕見学の小中高生に学習資料として提供する。
○見学会参加の小中高等学校13校に1350部を配布。

2. 日吉の戦争遺跡ガイド養成講座

6回開催 修了証書授与 受講者17名 修了者13名 現在3名がガイドに参加

10/6 「戦争遺跡ガイドのすすめ 一日吉の戦争遺跡の特徴とガイドの心得」

慶應義塾日吉キャンパス周辺のフィールドワーク

10/20 「近代日本の戦争を問い直す」

日吉の丘公園周辺の戦争遺跡見学

10/27 日吉台地下壕見学会に参加

11/10 ガイド実習 質疑討論

12/1 ガイド実習 質疑討論

1/19 まとめ 修了証書授与

3. 「第15回川崎・横浜平和のための戦争展」

戦争遺跡と共に、“市民が描いた戦争の記憶” 絵画展示やふるサポでの活動を展示

12/15～16 川崎市平和館

○展示 日吉台地下壕・登戸研究所・蟹ヶ谷地下壕

○若者の発表「いまと歴史と歴史教育—それぞれの視点から」・シンポジウム「戦争遺跡がいま問いかけるもの」・ひとみ座人形劇「9条君の運命」・紙芝居「満蒙開拓青少年義勇軍とシベリヤ抑留」など

☆☆これからの活動☆☆

「ふるサポ」で行った活動の継続と共に、日吉台地下壕保存の会の目的にある「日吉平和ミュージアム」建設を実現するための運動を進めていきます。



鯛ヶ崎プレイパークこどもまつり野外展示

報告

「港北寄りあい処」 喜田 美登里

2007年度「港北ふるさとサポート事業」の活動報告・交流会「港北寄りあい処」が3月15日慶應大学日吉キャンパス来往舎で開催され、助成対象となった9団体が1年間の成果を発表しました。このうち、日吉台地下壕保存の会を含む4団体は3年間「ふるサポ」の助成を受け、2007年度で“卒業”となりました。当日は喜田が活動報告を行いました。各グループの発表後、数テーブルに分かれて2008年度ふるサポの“キャッチフレーズ”を決めるワークショップが持たれ、岩崎・喜田の参加したテーブルの《あなたの夢が 広がる つながる 大きく育つ》が採用されました。助成を受けたこの3年間で保存の会の活動は発展し、地域への広がりを深めることができました。

2008年度港北ふるさとサポート事業は現在募集中です(5月12日迄)港北区のホームページで募集要項を掲載しています。

投稿

戦時中の日吉について

網野幸太郎

私は昭和20年4月1日、日吉の慶應大学予科の校舎に疎開していた海軍省人事局第二課賜金係に理事生(雇員)として入省致しました。賜金とは遺族を援助する一時金で、我々の仕事は、戦没者を戦死(戦傷死を含む)と戦病死に大別し、それぞれ将官、兵曹(下士官)、水兵の階級に小別して賜金を決める査定の仕事でした。当時軍事機密ですから当然でしょうが、既に連合艦隊司令部が日吉にいる事など、全然知らずに入省致しました。尚人事局第二課には賜金の他恩給、戦没、賞典という係がありました。又日吉は海軍省第七分室で、人事局の他経理局の一部も居りました。ここで昭和18年12月に本省(霞ヶ関)に入省した先輩から聞いた話を少し致します。

昭和19年11月1日B29が一機偵察のため海軍省本省上空に飛来し、その時屋上に設置してあった2連装の高射機関砲が猛烈に鳴り響き皆大変驚いたそうです。先輩はこれが本当にB29が東京に現れた最初だと言っていました。その後サイパンを基地とする本土空襲が一段と激化し、昭和20年人事局の一部は日吉に疎開することになったのです。同年2月に防空要員に任命された先輩は3月10日東京大空襲の日、東の空が真赤になるのを日吉から目撃したそうです。4月14日の空襲で先輩の家(池袋)も焼け、私の家(渋谷)も5月25日の空襲で焼けました。

このように空襲が益々激しくなり、20年6月26日新潟県湯沢分室に男子は観光旅館(現東映ホテル)、女子と職員(係長以上)は彼の川端康成が『雪国』を執筆した高半旅館(今でも川端康成が執筆した部屋はそのまま残されている)を宿舎として、職員他総勢200名と関係書類、事務用品等の大部隊が事務疎開したのです。7月には本土決戦にそなえて湯沢分室国民義勇隊が結成されましたが、8月15日終戦により東京の本省に復帰するため10月3日越後湯沢から霞ヶ関に戻りました。その後12月1日海軍省は廃止され第二復員省となり、23年5月復員省もなくなりました。因みに私は昭和22年7月に復員省を退職致しました。最後に、日吉には現在見学している地下壕の他に、校舎の左側に避難用の素堀の横穴が数ヶ所あり、当時から蛍光灯の照明があった事を書き添えて、私の拙文を終わります。

投稿

3月11日に白井先生の講演会と地下壕見学会を行った世田谷文藝クラブ代表の塚田さんの作品です。

塚田耕治さん略歴

大正14年横浜生まれ。昭和18年慶應義塾大学予科に入学し日吉で学ぶ。徴兵年齢が19歳に引き下げられたため、予科2年の19年9月5日松本の連隊に入営。出征にあたり「絶対に死なないで帰ってくる」と挨拶。終戦を九十九里浜でむかえ、20年秋大学に復学、23年慶應義塾大学経済学部卒業。会社経営の傍ら、馬場あき子に師事し短歌に親しむ。世田谷文藝クラブ代表。

短歌

日吉戦跡

塚田 耕治

憧れの日吉予科へと通いしに日ならずして戦いに出さる
 年古るも银杏並木の衰えず日吉駅より校舎を望む
 学び舎の地下に掘られし秘密壕作戦担当のみしか知らず
 踏み入れば日吉地下壕暗闇の支えあらざる厳天井
 洞繋ぎ人を導く地下道にゆく地下水の限りなく澄む



見学会 世田谷文藝クラブ



講演会 白井厚氏

連載

第1回 日吉の丘の青春群像

—小嶋萬助・上原良司・宅島徳光・愛新覚羅慧生について—

VS 亀岡敦子

緑ゆたかな多摩丘陵の東南端に位置する日吉の丘では、いまも残されている弥生式竪穴住居址や横穴墓跡からも分かるように、古来多くの人々が、それぞれの時代にそれぞれの生活を営み、歴史を重ねてきた。明治から昭和にかけて、この地でかけがえのない若き日をおくり、時代の荒波のなかで短い生涯をとじた4人の若者の青春像を追ってみたい。まず第1回として小嶋萬助と上原良司を述べる。

○小嶋萬助(1854年～1878年10月15日)

日吉駅の西側には、むかし「夕日山」とよばれていた小高い丘があり、そのふところに大聖院(景谷山東観寺)がひっそりと建っている。この寺の墓地に竹橋事件の首謀者のひとりとされ、処刑された神奈川県武蔵国橋樹郡箕輪村(現横浜市港北区箕輪)出身の小嶋萬助がねむっている。23歳11月の若さ、そして除隊を待つ婚約者がいたともいわれている。

竹橋事件とは、明治11年8月23日深夜、東京竹橋にあった近衛砲兵大隊兵士260余名が、軍隊内の不平等や人民の苦しみを、赤坂仮御所に仮住まいしていた天皇に直訴するために起こした反乱である。2、3時間後に鎮圧され、直ちに裁判にかけられ、同年10月15日、53人が銃殺刑に処せられた。処罰者は263名にのぼったとされる。小嶋萬助がそうであったように、反乱兵士の多くは、徴兵制により全国から集められた農家の2、3男であり、平均年齢は24歳であった。直接の動機は前年の西南戦争の論功行賞が上位者にのみ与えられ、下位の兵は減俸までされたことにたいする不満であるとされている。しかし、死刑者数53人というのは、西南戦争の24人、2・26事件の18人に比べても、事件の軽重をみても不自然に多い。政府はこの反乱のなかに自由民権運動の影響をみたことと、エリートである近衛兵の反逆に強い危機感をもった。そのために重い処罰を科し、まだフランス式合理主義がのこっていた軍規を、天皇を頂点とし、絶対服従を柱とする日本独特のものへと変貌させ、竹橋事件を歴史から消し去ったといわれている。

実際、信じられない素早さで、処刑3日前の10月12日、陸軍卿山縣有朋は、「軍人訓戒」を發布し、軍規厳正と服従、厳罰主義をさだめた。それは明治15年1月4日發布の「軍人勅諭」へとつながり、「下級のものは上官の命を承ることは実は直に朕が命を承る義なりと心得よ」という、天皇を最高指揮権者とし、絶対服従を至上規範とする軍律は、昭和20年8月15日まで60年以上、軍人だけではなく日本国民すべての心を縛り続け、兵士の命、自国民の命、他国民の命を軽んじる国柄を形成した。

処刑後遺体は、青山墓地にまとめて名前も刻まれることなく埋葬され、遺族のもとに返されたのは、明治22年の帝国憲法発布に当たっての大赦によるもので、萬助の墓もこのとき建てられた。戦前戦中と反乱兵士の遺族は、肩身のせまい思いをして、他に語ることなくひっそりと暮らしたようだ。竹橋事件についての研究や、それを題材にした小説はいまでも多くない。100年後にやっと光があてられ、研究に手が付けられた。書物としては、竹橋事件百周年記念編集委員会『竹橋事件の兵士たち —近頃人民一般苛政に苦しむにより—』・松本清張『象徴の設計』・澤地久枝『火はわが胸中にあり』などがある。

○上原良司(1922年9月27日～1945年5月11日)

慶應義塾大学経済学部在学中の昭和18年12月1日陸軍入営。特別操縦見習士官2期生として、厳しい教育と訓練を受け特攻隊員となる。20年5月11日午前6時15分、第56振

武隊の一員として「飛燕」で知覧から出撃、およそ3時間後に沖縄周辺の洋上で特攻死。陸軍大尉、22歳と8月であった。岩波文庫『きけわだつみのこえ』に収められている2編の「所感」と「遺書」は、あまりにも有名である。

上原良司が、慶應大学経済学部予科に入学し、日吉で学んだのは、16年4月から繰り上げ終了の18年9月まで。昭和9年に三田から予科が移転した新キャンパスは、13万余坪の広大なもので、勉学・運動・宿舎に理想のものを求め建設された。上原が慶應をめざしたのは兄の影響とおもわれ、2人の兄良春と龍男はともに慶應大学医学部を卒業後、軍医となり、戦死した。白井厚編『アジア太平洋戦争における慶應義塾関係戦没者名簿』18頁には、3兄弟の名前が並んでいる。心が冷たくなる。

上原の学生時代の日記からは、戦時色が次第に濃くなっていく中でも、勉学に励み、読書をし、スポーツに汗を流し、時には友と激論を交わす、生き生きとした学生生活が読み取れる。テニス部に所属していた上原が、兄のカメラをかりて写したコート上での友人との写真がいちまい残されている。60年後にテニスコートを訪れた妹の登志江は、緑に囲まれた谷間のコートをみて、故郷信州の風景が二重写しになる、とあって喜んだ。

このころ日吉から綱島にかけては、桃とイチジクの産地として有名で、春は、一面文字通り桃色にそまり、甘い香りが風に漂っていたという。日吉の寄宿舎の設計依頼をうけた東京工業大学助教授であった谷口吉郎が、榎理事と一緒に予定地を下見した冬枯れの日の様子をかいた随筆のなかに、崖下の満開の桃畑を想像し、構想をまとめたとある。しかし戦況悪化と共に、ぜいたく品である桃畑は、軍の命令で野菜畑にかえられた。

予科終了間際の昭和18年9月22日、上原は最初の遺書を愛読書羽仁五郎著『クロオチェ』の見返しに書いた。総理大臣東條英機がラジオで学生の徴兵猶予を停止する旨の演説をしたからであった。多くの学生がこの演説を聴き、深い絶望を味わったであろうが、それが直ちに遺書を書かせるほど思いつめた若者は、そんなに多くはなかったのではないか。彼は、父母兄妹、親しい人々の名を記し別れを告げた。そして秘かに想いをよせる女性への恋文は文中の文字を丸印で囲み、それをつなげることにより綴られた。

上原は10月21日の神宮外苑出陣学徒壮行大会に参加したひとりである。この日のことは簡単な日記風のメモに、「十月二十一日(木) 学徒出陣壮行会。制服制帽、八・〇〇、外苑競技場、キャハン」とだけ書かれ、翌日の「十月二十二日(金) ニュー・ヘブライズ諸島、龍男兄さん戦死。」という感情抜き書きのなかに、それ故にこその上原の深い思いが込められている気がする。上原が三田で学んだのは、わずか2ヶ月であったから、彼にとっての青春の地は、間違いなくここ日吉である。四季折々の学び舎をどのようにみていたのであろうか。

上原良司に関する研究・著作は枚挙にいとまがない。学徒出陣と特攻隊を研究する際には、というより、戦争の本質を考える際に、避けて通ることのできない重い内容の「所感」を残したからである。1994年の白井研究会の展示「特攻50周年」に続いて、遺品や写真の展示がおこなわれている。昨年生誕地長野県池田町には彼の碑が建てられ、遺志を伝える縁となっている。現在信濃毎日新聞社から出ている『あゝ祖国よ恋人よ』には、彼の遺書や日記が収録されており、その思想の変遷を知ることができる。わたしは岩波ブックレット『いま特攻隊の死を考える』に拙文「特攻隊員・上原良司が問いかけるもの」を、書かせていただいた。ご一読いただけると有難い。

報告

建設中止を求めしぶとく反対運動を！！

日吉五丁目の旧日本海軍の軍令部第3部などが使用した地下壕を破壊するマンション建設計画は、私たちの建築許可取り消しの審査請求などの反対運動の影響もあり、この数年間凍結されたままになっていましたが、今年の9月6日に門思修えい社からタスココーポレーションに



開発権限を継承する処分がなされました。タスコーポレーションは、市から継承の許可がおりると、戸建て住宅建設のための開発許可を継承するが、其の最終目的はマンション建設であることを説明会の席上公然と表明しております。それは業者の信用をいちじるしく失墜する行為であり、開発許可を継承する要件を欠く処分であるとして、近隣の開発反対の住民と保存の会の両者の連名で、昨年11月26日に横浜市対して処分に対して異議申し立てを致しました。

結果は、今年の3月26日に横浜市中田市長名で、「本件異議申し立てを却下する」の決定書をいただきました。却下の理由は、異議申し立て人の資格がないという門前払い、「取り消し訴訟における原告適格」の問題と同様の判断

がなされてました。予想はしていたものの、相も変らぬ住民からの行政争訟を非常に限定する不当な内容のものです。

業者はこの異議申し立てを提出する直前に取り付け道路の工事に一部着工しました。がその後、全く動きはなく、ほぼ現状のままになっております。なぜそのようなことになっているのかははっきりした理由は分かりませんが、前業者が着工できなかったのは銀行からの融資が不可能となったからとの見方がされています。今回もそのような可能性を否定することはできません。銀行どうしが、「問題」の不動産情報を相互に流しているということはよくあることです。反対運動の影響がでているのではないかと思いたいところです。

今後のこととしては、開発許可の継承処分に関する書類の情報公開を求め、改めてこの継承処分の問題点を洗いなおすこと、その結果、処分決定の取り消しを求める訴訟を起こすかどうか、反対住民とよく協議した上で判断をしていきたいと思っています。

(運営委員 茂呂秀宏)



マンション工事現場

連載

地下壕ガイドから一言 第1回

渡辺 清

私、NTTの退職者です。NTT退職者の会は北海道から沖縄まで10万人の全国組織です。横浜市の静かな住宅街の一角にある慶應大学日吉キャンパス、この地下に眠っている旧帝国海軍連合艦隊司令部などが置かれた巨大な地下壕を知ってもらいたいと思い、提言し、見学会を企画しました。1月26日に東京の代表15名が見学会に参加しました。こんな場所にこの様な戦争遺跡を見て驚きを感じたと言っていました。又、NTT退職者の会「ひろがりネット」のいきいき通信欄にも投稿しました。

巨大な壕、空洞は戦争そのものを私たちに語りかけてきます。悲惨な戦争を二度と起こし

てはなりません。この遺跡は戦争の証拠であり、証人です。

全国に発信しました。

書籍の紹介

(1) 日吉台地下壕に関する書籍

『戦争遺跡を歩く 日吉』 日吉台地下壕保存の会編 私家本 2006 200円
近年の小中学生の見学増加をうけて分かりやすく書かれた入門書。日吉台地下壕見学の資料としても使用している。

『フィールドワーク日吉・帝国海軍大地下壕』 日吉台地下壕保存の会編 白井厚監修
平和文化 2006 600円

写真・図表が豊富なガイドブック。学問の府である慶應義塾大学日吉校舎が海軍連合艦隊司令部となった「歴史の証人」としての一面が明らかになる。

(2) 戦争遺跡全般に関する書籍

『戦争を歩く みる ふれる ピースロード多摩丘陵』川崎・横浜平和のための戦争展実行委員会編
教育史料出版会 2001 1600円

日吉から八王子まで多摩丘陵の戦争遺跡を辿りながら平和について考える。

(日吉台・箕輪・井田・蟹ヶ谷・宮崎台・生田・八王子ほか)

『平和ウォーキングマップ・川崎』平和マップづくり実行委員会編著
教育史料出版会 1995 1400円

川崎市全域の戦争遺跡を網羅しており、地域から戦争を知ることができる。

『しらべる戦争遺跡の事典』十菱駿武・菊池実編 柏書房 2002 3800円

『続しらべる戦争遺跡の事典』十菱駿武・菊池実編 柏書房 2003 3800円

戦争遺跡の全てがわかる戦跡考古学事典。日本と海外の戦争遺跡と、調査研究のための情報データベースや、学習方法も記載されている(日吉は前書)

『戦争遺跡から学ぶ』戦争遺跡保存全国ネットワーク編 岩波書店 2003 820円
ジュニア新書に収められている。中高生にも解りやすい手引書。

『日本の戦争遺跡』戦争遺跡保存全国ネットワーク編著 平凡社 2004 1200円
全国の現存する約130件の戦争遺跡が紹介され、入門書として最適。

戦争遺跡に関する出版は、2000年頃から徐々に増え始め、戦後六十年目から上記のような研究書の他にも、優れた写真集も数多く出されました。「戦争遺跡」という言葉も市民権を得たようです。ここに書きました本は、会として関わっておりますので、会員の皆様にお分けすることが出来ます(定価と送料)。また、「会報」と「戦争遺跡全国大会の報告書」の残部が少しあります。ご希望のかたには、実費でお分けいたします。ご相談ください。連絡先(亀岡 045-561-2758)

お知らせ

11年目を迎える「平和のための戦争展 in よこはま」が5月30日から3日間開催されます。皆様お出かけください。(日吉台地下壕保存の会は展示で参加します。)

見つめよう！語り合おう！戦争の過去といま

2008 平和のための戦争展 in よこはま 展示と特別企画

5月30日～6月1日

横浜駅西口 かながわ県民ホールセンター

展示 5/30 (金) 10時~19時 5/31 (土) 10時~19時 6/1 (日) 10時~18時

横浜大空襲他 約500点

横浜大空襲/絵画/横浜の戦跡/学童疎開・勤労働員/日吉台地下壕/栄区燃料廠/船と戦争/横浜事件/アジアでの戦争/教科書/原爆展/沖縄と戦争・うちな一賛歌/占領下の横浜/米軍基地/米軍機墜落事故/憲法9条/世界の平和/平和のバラ/WFP/アムネスティ/横浜の自然etc

特別企画 5月30日 落語「東京大空襲」柳家さん八さん 18:30~20:30

5月31日 小山内美江子実行委員長 挨拶と講演・映像と講演「動物園から見た地球環境」(ペンギン会議・森角興起) 影絵紙芝居「ブナ爺が語る丹沢物語」(梶谷泉) 13:30~16:30

6月1日 中学生たちと創る朗読劇 「横浜米軍機墜落事件から31年 お空の上から何が見えますか」「横浜の空襲と戦災物語 63年前の5月29日・よこはま」14:00~16:00

入場料 無料 特別企画は資料代500円

主催 平和のための戦争展 in よこはま実行委員会

後援(予定) 横浜市都市経営局 神奈川新聞社 朝日新聞横浜総局 毎日新聞横浜支局 読売新聞横浜支局 東京新聞横浜支局 tvk (テレビ神奈川)

横浜大空襲の写真パネル区役所等巡回展 5月19日~6月28日

会場 各区役所区民ホール等

☆泉区・緑区 5/19~23 ☆神奈川区・瀬谷区 5/26~30 (瀬谷は瀬谷駅窓口サービスコーナー) ☆中区 5/27~30 (波止場会館) ☆磯子区 5/28~30 ☆港南区 6/2~6 ☆保土ヶ谷区 6/9~13 ☆金沢区 6/15~28 ☆鶴見区 6・19~25 ☆青葉区 6・23~27 ☆未定 栄区 港北区

お問い合わせ 平和のための戦争展 in よこはま実行委員会 (045-241-0005)

☆開催中、日吉台地下壕のブースの展示準備・会場係などお手伝いいただける方はご連絡下さい。(045-562-0443 喜田まで)

✿「港北おでかけガイド」✿

横浜市の広報よこはま こうほく区版 4月号に掲載されたものです。市営地下鉄グリーンラインが3月30日に開通しました。沿線の春のおでかけスポットとして日吉も紹介されています。広報を見た方から見学会の問い合わせが沢山ありました。



活動の記録 (2008年2月～4月)

- 2/6 運営委員会 会報86号発送(慶應高校物理教室)
- 2/23 定例見学会 2名(寒いせいか参加者は2名でしたが、ガイドは7名でガイド実習をじっくり行いました)
- 2/27 空襲被害の聞き取り 箕輪町 小嶋英佑さん(運営委員5名)
- 3/3 地下壕見学会 田園調布学園 63名
- 3/11 地下壕見学会 世田谷文藝クラブ 22名 (10:30より白井厚氏の講演)
- 3/15 港北ふるさと博物館事業“港北寄りあい処”にて発表(来往舎大会議室)
- 3/17 運営委員会(まりも)
- 3/18 地下壕見学会 日吉台町自治会 34名
- 3/21 地下壕見学会 下田町自治会文化部 40名
- 3/22 定例見学会 28名
- 4/1 平和のための戦争展 in よこはま実行委員会(かながわ県民博物館センター)
- 4/4 空襲被害の聞き取り 箕輪町 小嶋英佑さん(運営委員2名)

予 定

- 4/17 運営委員会 会報87号発送(慶應高校物理教室)
- 5/24 日吉台地下壕保存の会総会

定例見学会 4/26・5/24(午後が総会のため10:00～)・6/28・7/26

見学会ガイド博物館参加のご連絡は見学会窓口まで。お待ちしております。

定例見学会は毎月第4土曜日に行っています。なお日程が変わる場合もありますので必ず見学窓口に申し込んでください。

(見学申込先 TEL&FAX 045-562-0443 喜田)

連絡先(会計) 亀岡敦子: 〒223-0064 横浜市港北区下田町5-20-15 TEL 045-561-2758
 (見学会・その他) 喜田美登里: 横浜市港北区下田町2-1-33 TEL 045-562-0443
 ホームページ・アドレス: <http://hiyoshidai-chikagou.net/> (新アドレス)

日吉台地下壕保存の会会報 (年会費) 一口千円以上
 発行 日吉台地下壕保存の会 郵便振込口座番号 00250-2-74921
 代表 大西章 (加入者名) 日吉台地下壕保存の会
 日吉台地下壕保存の会運営委員会